

## 『川からのまちづくり』

講師：中村英雄（NPO法人新町川を守る会会長）  
コメンテーター：江川直樹（現代計画研究所）

### 講師紹介

C：本日お話頂きますのは、「NPO法人新町川を守る会」の会長をされております中村英雄さんでございます。徳島からわざわざお越し頂きました。新町川を守る会の活動については聞いていただければそのユニークさが分かって頂けると思うんですけども、中村さんは、1990年に「新町川を守る会」という会を設立されまして、昨年NPO法人として登記されています。この会の活動は多方面に渡って賞をもらわれています。環境庁長官賞、自治大臣賞、第一回都市環境デザイン大賞など、様々な賞を受賞されています。たまたま今日の徳島新聞ですけども、これにも会の活動の事が載っております。ひょうたん島って後でご説明があると思いますけれども、そのひょうたん島を舞台にした官民一体の街づくり活動が全国的にも高く評価され、これまでに多数の賞を獲得しているという事で紹介されています。非常に面白いお話しになると思えます。私は実は別の所で一度お聞きしておりまして、本当に興味深いお話ですし、目から鱗みたいな話だと自信を持って言えます。それでは、よろしくお願ひします。

### 3千円払いますと川を掃除する権利を与えます

こんにちは。新町川を守る会の理事長の中村です。大阪まで呼んで頂いて有難うございます。大阪へは、徳島駅を出て阪急3番街まで車でちょうど2時間位で着きます。徳島は人口が26万5千。それで非常に川が多くて、大阪も川の多い「水の都」と言うんですけど、徳島もほんとに川が多くて川の数で徳島市内に138流れております。

大阪の川と比べますと、徳島の川の方は非常にこう水の所まですぐ寄っていきます。川が満潮になる時には、公園のところで水に手を伸ばしますと水に触れます。大阪の方はちょっとここで護岸を見てみるといつも非常にパラペットが高く、それから矢板を打ってあって、なかなか水とは遠いなあと、水の都と言った時にやはりもっと水と触れたらもっともっと水も綺麗になるんじゃないかなと思ひます。

徳島の私達が活動しているこの新町川っていうのは、徳島市の中心部を流れておって徳島市のシンボルになっております。ちょうど吉野川の水を入れておりますので、吉野川の支流になっております。昭和20年位までは非常にきれいな川であったんですけど、それからどんどんどんどん汚れていって、昭和30年代、40年代、50年代くらいまでほんとうにこうどんどん汚れてきました。昭和40年くらいの時にはもう、徳島は阿波踊りの所なんですけど、阿波

踊りの言葉の中に「新町橋までいかに来い来い」とあってるんですけど、この新町橋のところ昭和40年くらいの時はあんまり臭くて、観光客の人に格好悪い言うんで、消臭剤を撒いておったくらいです。その時は魚なんかもう一切いなくなりました。昭和40年代、50年代は魚が一切いなくなつたんですけど、今はもうかなりその新町川にも魚が40種類くらいおります。年々々々変わった魚が入ってくるような気がします。ちょうど、汽水域っていうのは海水が入ってくるところで、海の魚がほとんどなんですけど、チヌとかスズキとかイワシなんかおったりとか、スズキなんか60cmぐらいのが今では釣れます。

川掃除を始めたのはちょうど平成...、特に会をこしらえてしたのは平成2年からなんですけど、どんどん川が綺麗になってくると、川の縁の建物がどんどん変わってきました。新町橋への、徳島駅を下りるとすぐ新町川に突き当たるんですけど、そこに新町川水際公園というのが平成元年に出来まして、その後そこで新町川を守る会を作りました。毎月一日と第3土曜に船4隻くらいを出して掃除してるんですけど、ずーっとこの1年間くらい続けております。多いときには月に、この2ヶ月前、8月には台風なんか来て一ヶ月に14回くらい掃除に出て行きました。会は、出来る人が出来る時に出来る事を、といて誰でも好きなときに来なさいということで、一応会員になりますと川を掃除する権利を与えます。会費は年会費を3千円貰っています。3千円払いますと私達の方の会に入る権利を与えるということで、法人が3万で、今平成2年に始めて会員数が250名位になりました。

そういう掃除をするのと、他にもまたそこで皆が川に親しめるようなイベントなんかお仕掛けていきます。そして新町川だけでなく、新町川の水というのは吉野川から来てるから、吉野川の方もやっていくということで吉野川の方もする。そうしたら吉野川の上流も行かないかんということで今高知の方まで行ってます。早明村ダム、ちょうど四国の水がめということなんで、いつも四国の早明村ダムが、水が濁水になった時に大川村の役場がいつも映ってくると言うんですけど、そういう所まで木を植えに行ったりとか、また山の方だけで無しに今度は紀伊水道の一番端の所に、四国の一番東の端に伊島と言うのがありますがそこの方にも掃除に行きます。

そこはもう大阪湾のゴミがみな集まるようになっておりますので、海岸のゴミを掃除しますと大阪から来たのもだいぶあります。海流の関係上ものすごく流れ着くようになっておりますので、今年も5月に行ったんですけどその時で

も...、一旦船に積んで帰ってくるんですけど10トンの車で3回か4回ありました。それは島の掃除ですから私達の方で「ゴミ拾いツアー」というので会費を取って掃除しに行きます。それでも島まで船で行きますのでチャーターする船も5、6隻ですからあまり多く行けませんので、200名位が行きます。島の人口が200名くらいです。そこには水道がありませんのでトイレも全部持参しての掃除なんですけど、200名くらいは行きます。昨年からの島の掃除をしているんですけど、今年はようち申し込みがあって200名くらいで締め切りました。そういうことをしていくと、ものすごく島の人との交流というのが出てきて、漁師との交流も出てくる。いろいろこの川掃除なんかもどんどんしていきますと、住民がどんどん先頭に立ってやっていきますと行政もどんどん後からついて来てくれるし、やはりそれから周辺の建物もどんどんどんどん変わっていきます。新町川の水際公園が平成元年に出来上がったときに、公園はきれいに出来たんですけど対岸が汚かったんですけど、今はもう見違えるようになってきました。そしてレストランなんかも建ったりとか、マンションなんかでも川が見えるからとらことで売り出しています。川が綺麗になると市民も川の方に目を向け出して、どんどん街が変わっていくなあと感じがします。それもやはり行政がするんで無しに住民がしていくということが大事じゃないかなと。今徳島で色々公園づくりとか水際の公園づくりとか色々してるんですけど、やはり行政がするということよりも住民が先にしていって、そして行政と一緒に。今“住民参加、住民参加”よく言うんですけど、住民参加と言ってる時には住民参加になってないような感じがします。私はいつもよくよそへ行く時には、住民参加でなしに「行政参加の街づくりをしましょう」と言うんですけど、とにかく住民が先に動いていきますと行政は必ず後からやって来てくれるように思っています。それになった時に初めて「住民参加」でないかなあという感じがします。では、掃除のスライドを見ながらそういう話をさせて貰いたいと思います

4車に一杯位のゴミはいつも集まってきます

徳島市です。一番上の方が吉野川で川幅がちょうど上の橋が2本写っている所でこれでちょうど川幅が1kmある... 1kmとちょっとあります。徳島で特にやかましく言われた、今いったん落ち着いてるんですけど、第十の堰っていうのはここから、この橋から1kmくらい行った所の上流の方にあります。これがちょうどひょうたん島です。もともとひょうたん島とかいうのは無かったんですけど、私達の方が平成元年に水際公園が出来たときにここでひょうたん一周ポートレースというのを始めました。その時「ひょうたんひょうたん島」というのがあったもんですから、ひょうたん島一周ポートレースというのであれば、NHKがちょうど放送しましたのでそれで、もう「ひょうたん島ひょうたん島」

と言い出したら徳島市の方でも「ひょうたん島」に定着してきました。新町川っていうのがこの吉野川からこう入ってこちらの方向へずーと流れて、海までの間の6.9kmです。これを舞台にしているんな活動をしております。

ちょうど上空1500mの所から映したひょうたん島です。こちらの方が今の新町川、こちらの方がすけとう川というふうになっております。徳島駅がちょうどこの場所にあります。私達がよく活動している所は、この新町川水際公園。この辺りが新町川水際公園になっております。ここが県庁です、徳島の。市役所がこの辺りです。

こういう様な船4隻くらいでいつもだいたい掃除します。こういう様な船に乗りまして、ずーと網でゴミをすくっております。非常に原始的な方法なんですけど、やはり機械で掃除するとか言うんじゃ無しに市民がああいうような形で掃除しているんだから放らなようにしようというそういうような気持ちが出来たらなということで出来るだけ網で掬って、そして拾っております。ゴミは平成2年の時からずーと会を作ってから掃除してるんですけど、いつでもだいたい約4車に取りに来て貰っております。4車だいたいいつもいっぱいになります。ゴミはスーパーのトレイとか、それから生ゴミ、空き缶、量は少ないんですけどたばこの吸い殻とかそういうものがほとんどです。平成2年の時にはまあもの凄かったんですけど今はまあ大分減ってきました。それでもいつも4車に一杯くらいのゴミはいつも集まってきます。

これも掃除しているところなんですけど、ちょうどこれが平成元年に出来ました新町川水際公園です。その前のその所を出たところなんですけれど、ゴミには動物で言うと犬とか猫とか鶏とかかなりあって、今まで変わったところでは動物では豚がありました。豚あげるのは大変だったんですけど、それから前に一回、この船が置いてあった所で人もありました。私達の方の会員の中では、人間を10数人が20人あげた人もいます。

一番前が、先頭が徳島の県知事です遠藤さんです。私達の方の会員は議員さんは入れんということにしています。(もしくは、)議員さんの場合は年3回掃除しに来てくれるとい事を義務づけております。3千円払っても年3回来ないかんとい事にしておりますと今のところ知事さんだけが年3回来ております。今年は5月と7月ともう一回来て、今年ももう合格しております。

なかなか掃除は夕夕ではできません

これちょうど県庁の前なんですけど、こういう様な船。これは環境事業団から50万円頂きまして、その時たぶんそ

れが90万円位かかったと思うんですけど、5、6年前に購入した船です。川の掃除をするのにはこれはもう 県庁の職員、それからデザイナーの人とか職業はもういろんな人がおります。一応警察官がおらんかなというだけで後は大体おります。建築士の人もだいぶ入っております。掃除するのはこういう船 4隻ぐらいがちょうど良いところで、こういう様な船 3隻は私達の方で持ってまして、あと1隻こちらの船は漁師さんから持ってきて貰っております。これ以上に増えますと1隻借りるのに2万円位かかります。ですから4年くらい前に青年会議所の全国大会がありましてその時に200人が掃除に来てくれると、船のお金だけ、掃除に来るのは結構ですけど1人3千円で、それから60万お願いしますと言ったら60万出してくれました。15名ぐらいの時までだったらちょうど1万円位で掃除出来るんですけど、よけ人数が増えてきますと5人増える度に2万円ずつかかってきます。それは参加する人に出して下さいというふうな風で言っております。教育委員会なんかで学校の先生で50人来ますよ100人来ますよ言うんですけど、掃除に来たらタダで出来るように思っとるんですけど、なかなか掃除はタダでは出来ません。私達の船で行きますので船のお金がかかってくるわけです。ここで使っているゴミの袋なんかは自前で買っております。

川でも先ほどの新町川の方は少ないんですけど、外れて来ますとこういうふうに自転車がいっぱいある所もあります。徳島市は下水道が非常に遅れておりまして、徳島県全体で言ったら10%ぐらい、下水道の普及率が、全国でも和歌山が一番悪くて、その次が徳島。徳島も和歌山に追い越されそうなくらい悪いです。徳島市内でも27% 28%ぐらいの下水道の普及率です。ちょっと変わった所に行きますとこういう様な形で今も自転車が沢山あります。まあこういう所までやはり綺麗にせないかと。水の都徳島にしてこういふ時に「溝まで綺麗な川」とかいふ形で、とにかく常に取り組んでおります。

新町川水際公園から出発して毎月1日と第3土曜日に掃除するんですけどその時間は決まっております、お昼の1時～3時まで。これは四国電力さん。電力さんは毎月1日の日がweek dayの時は掃除にやってきます。年にそれですから7・8回はこういう形で参加してくれております。この日は四国電力の支店長と一緒に来てくれてこういう形で掃除しました。なかなか企業の方はまだ少ないんですけど、企業がどんどん入ってきてくれますとだいぶ変わってきます。

これ昨年、一つ変わったゴミを集めてみようということで、10・11・12月で新町川に流れている変わったゴミを集めてみました。ゴミ100選というのをしたんですけど、だいた

いにみらようなゴミが流れております。ペットもあるし、こんな応接セットもあるし、洗濯機もあるし、ゴミを捨てたらいかんといふ看板なんかもあるし、警察の看板もあるしで、いろんなもんが流れてきます。夏の間こんな事して溜めてしまつとものごく臭いんですけど、冬の間は溜めてもいけるといふことで、今年のクリスマスのときに集めてみました。

#### 吉野川と養子縁組をしています

新町川を綺麗にするのには、新町川の水というのは吉野川の水を入れて綺麗にしております。最初新町川がどんどん汚れてきたときにはこの吉野川から新町川に入ってくる所にキ門があって、このキ門に入ってくると次に閘門というのが造っております。満潮になりますとその閘門を閉めまして、そして吉野川の水を引き入れて下流の方に流していく。閘門を開けておりますと吉野川の方の流れが速いもんですから吉野川の方に流れてしまいます。それで満潮になった時、閘門を閉めて新町川の方にずーと水を流すようにしております。それが昭和54年に4t平成4年に3t平成7年に3t今、毎秒10tの水を新町川の下流の方に流しております。対症療法なんですけどそれでよっぽど川が変わってきました。最初の内は、平成2年や3年とかいい時だったら川の所は全部ヘド口だったんですけど、今どんどん吉野川の水を入れて、砂もどんどん入ってきますのでヘド口の上に砂が乗って、船が通っても前であればヘド口で黒くなっておったんですけど、今は大分砂の色がするようになってきました。

これはアドプトプログラムと言って吉野川と養子縁組をしています。建設省と県の方が徳島県のほうで事務局を引き受けまして吉野川との養子縁組をして一定期間を掃除するという事です。私達の方がこの吉野川橋からちょうど900mの間を養子縁組結びまして掃除しております。2年ほど前から始まったんですけど、今はこの吉野川を清掃するというので60か70団体ぐらいの責任を持って掃除するようになりました。一応年に3回とらふことに、県とか建設省との契約は1年間に3回ということになっておるんですけど、私達の方は毎月第2日曜日に清掃しています。この前行って来たんですけど、やはり年に3回がなかなか難しくてやはり毎月1回はせないかんといい事で第2の日曜日にしております。掃除が済んだ後食事会をするようにしております、この前はうどんであったんですけど、最初のうちは伊勢海老のみそ汁とか、渡り蟹のみそ汁とかいろいろのものをしておりました。だんだんお金が無くなってきました今はどうなっております。

#### ゴミの撤去費も会費で払っています

だいたいこれぐらいのゴミは吉野川でも集まってきます。これは90%入りの袋です。これでも一般廃棄物として取

って貰っておりますので自動車のタイヤなんかは持って帰って来ません。それで自動車のタイヤは特別私達の方で持って帰ったりしています。それと河川敷ですからテレビとか冷蔵庫とかが大分捨ててあります。テレビとか冷蔵庫を拾って帰るとその都度3千500円こちらが払わないかんとい事になる。やはり市民が汚したんだから市民の手で掃除していただくということで始めておりますのでこのゴミの撤去費も全部自分達の方の会費で払っております。一回取って貰うのが7千円です。7千円払って取って貰っております。ほかの徳島県の団体ではこんなに多くゴミが出てきませんのでどこかの所に、行政の方に取って貰っているのだと思います。私達も10年にわたって掃除しておりますので、ゴミ集めの専門の様になっておりましてものすごくゴミを集めるのが上手になっております。こういう所に来る会員そのものは20人30人なんですけど、食事会をするということで周辺の人にも集まって貰ってます。ですから多いときには100名位が掃除に参加してくれています。一緒に交流して、吉野川を見ながら食事をするという事をしております。

これは年に1回だけ行っておる所なんですけど、四国が一番東の端にある紀伊水道。紀伊水道の所に浮かぶ伊島というのがありまして、そこへ掃除に行っております。海流の関係上もの凄くそこへゴミが集まってきます。それで1年に一回、漁師さんも一緒に掃除に行こうとい事で、これ最初漁師の方からあったんですけど、紀伊水道も今魚が昔と比べると随分減っております。阪神大震災の後、大きな瓦礫が底引き網でしますともの凄く引かかてきます。海が荒れてると、魚が取れんとか言って漁師さんも一緒になって掃除をしたいとい事で、漁師さんと一緒になって掃除をしております。ここへ行くのは年に1回なんですけど、ゴミ拾いツアーといって一応皆から会費を取って掃除に行ってます。それでも今年は奈良、淡路、高知、県外からもだいぶ、10名~20名程の参加者がありました。掃除の済んだ後は全部地元の漁師さんの方で、婦人部の方が食事をしてくれます。

こういう形で海岸線にももの凄くゴミがある。この見えるだけのゴミじゃなしに、この底に2mか3mくらいずーと昭和30年くらいからゴミが溜まっておりますので、なかなか上のゴミだけとっててもだめです。こういう人だけで行っても私どもが行ってもなかなか掃除はできんと思うんですけど、まああと4、5年続けてその後はもう行政の方にお任せしようと思っております。出来るだけ取って綺麗な海岸に戻すとい事をしたいなと思ってます。昔はここでこれを焼いたこともあるんですけど、今とでも焼けません。以前ここで燃やした事があるらしいんですけど、そこそこへ火がついて行ってなかなか水を掛けても2日も3日も消えないら

しいです。ですからもの凄くゴミをほかほかします。

#### 川で遊ばないかん

川を綺麗にするというのには川で遊ばないかんという事で、掃除だけではないかんということで、とにかくよく川で遊びました。これは徳島市の広報船でひょうたん号という船で、今から9年くらい前に市役所が買った船です。市役所の市の広報船です。これで私達の方は最初川巡りをしたりとかいろいろしておりました。この時は第2と第4の日曜日だけです。

こういう様な船に乗って、これは私達が遊んでるんですけど、とにかく陸上から見てもらったときに面白くして行こうと言うことで、あんな船に乗たらうやまいなあというふうな形にしています。これは古い写真なんですけど、この一番後ろで運転しているのが今も辞めてしまったんですけどマイクロソフトの総括部長をやった板東直樹です。この前行ったらもう辞めてしまってるんですけどこちらが前NHKにおった竹内記者です。えらい変わるとる人で、だいたいちがかわると言う人はもの凄く変わるとんです。カンボジアの時の一番最初にNHKで派遣された人です。カンボジアの、自衛隊が行った時の最初に派遣された人です。変わった人がようおありまして、この人とこれが夫婦で、この夫婦も変わっておりまして会うのが2年に1回くらいの夫婦です。なかなか片っぱ東京におるんですけど片っぱは徳島でデザイナーしておるんですけど、最初のうちは1月に1回くらいだったんですけど今たぶん2年で1ぺんくらい会う夫婦になっておるわけです。変わっております。

これは私達の方の船のクイーンリバー号、14人乗りになっておるんですけど出来るだけ楽しく乗って行こうという事しております。3、4年前に県庁の人も皆乗って下さいと言って色々な人に各課皆乗って行ってもらったんですけど、林業振興課の人に乘って貰った事があってその時に、公務員の人はどうしても紺とかグレーの服が多いもんですから、夕方ちょうど一番河口の所まで乗って行くとる時に釣りをしとる人が見かけて、難民が乗るとる言われました。難民が乗るとると、夜中の2時くらいまで警察から取り調べがあって、本当ですか？本当ですか？という調べられたことがあります。出来るだけ船を楽しく乗って貰いたいなということでいつも私達の船はこういう遊べるようにしております。

#### 無料の川巡りをしています

とにかくこの川から街を作っていくということでこの船をちょうど7年前に1隻買って、これは5年ほど前に買ったものなんですけど、この船2隻でひょうたん島の川巡りをしています。川を活かした街づくりをしていくということで、お

客さんに無料で乗ってもらっています。最初の5年ほど前までは毎週土日祭日であったんですけど、2年ほど前からは毎日出しております。ですから今日もお昼の1時から40分毎5回出しています。お金がないもんですから困るんですけどとにかく無料で、乗ってもらってそして多くの人に乘ってもらってそして街づくりをしていこうという事です。料金取ったらと言ってくれるんですけど、これよりも会員を増やしてやっていかないと、今行政の方も非常に厳しいですから。私達のNPOも自分達の街は自分達でつくるといことで、出来るだけ行政にそういうところは頼らずにやりたいなあと考えています。行政の方でも1年間にこの船に対しては、2割ぐらいいは補助金は出ています。だいたい1年間動かしますと2隻であったら500万円はかかってきます。だから100万くらいは市役所のほうから負担して貰っています。私達の方が息切れしないように市役所に頼みます、と言うてあるんですけど、できるだけがんばるようにして、街作りをしています。

### 3千円のメリットは徳島が良くなること

この辺りのへんも全部徳島の特産の青石をずーと貼ってます。平成元年に水際公園が最初出来上がった時から、ひょうたん島はずーと常に青石を貼っておりまして周囲が一週6kmなんですけども、いつも工事をしている。ちょっとずつこの青石を貼って行ってます。徳島のようなお金のない所で、よくまあこんなだけようけお金が使えるなあとと思うくらい、この川にはお金入れてます。3ヶ月程前に東京の河川課の人がおいでして川巡りをしたんですけど、徳島はこんな所にようけお金を使うなあ、と。この護岸の青石貼りがこの時、㎡5万円とか言ってました。今も一カ所また青石を貼ってる所があります。こういう川巡りをしていくという事によって、行政の方もこういう形で応援してくれています。ですから、私達の方の会に入った時に3千円払ったらなんのメリットがあるんですか？ってよく言われるんですけど、徳島が良くなるだろうという事は言っております。近くの欲でなしに、大きく儲けていくと。もの凄く欲張りになればというふうな形で、と思っています。どんどんこう、街が変わっていくのが分かるような気がします。

この台船は昨年の4月に作ったんですけど勿論これはこういう所に置いたらいかん、私達の船は不法係留です。不法係留なんですけど、全部無料で乗せておりますからオンブズマンも普通だったら指摘して来るんですけど、もの凄く応援してくれます。こちらの方の公園の方は車椅子で降りれるんですけど、オンブズマンの方は、これは公園に降りられる様にせないかん。そういう様な形でオンブズマンの方まで応援してくれています。船も車椅子ごしでずーとこうして乗れるように改造しました。そういうような事を

してると、今年の5月に建設省の方で、吉野川の本線なんですけど、そこに船着き場を作ってくれました。車椅子が充分乗れるようなところです。今月の29日にその船着き場から車椅子の人が30名乗ることになっています。車椅子の人とか、目の見えない人でも、もの凄く喜んでくれます。船に乗りますと、誰も彼もが川を楽しめる様になってきました。一般の人が、健康者がどンドン川巡りをしておりますと車椅子の人も乗りたいと。そしたらそういう形で船を乗れるようにしていきますと行政の方もそういうような形でどンドンとこういう船着き場を作ってくれます。

徳島、8月の12, 13, 14, 15と阿波踊りなんですけど、阿波踊りをもっと1年に4日じゃなしに毎日、長いこと使えるようにという事で、こういう阿波踊りの練習の時に船を出しました。阿波踊りの練習はいつも、このひょうたん島の周りの公園で5月くらいから始まってきます。そして川で船もずーとその時一緒に回って、船の中も一緒に踊るといようになります。5月からであればこういう様な形で、普段阿波踊りの時は着物を着ておるんですけど、練習風景と一緒に楽しんでいきます。このちょうちんも、やっぱりちょうちん付けないかんということで私達の方の会でちょうちんを付けております。

昨年の写真なんですけど、阿波踊りの時は一日千名くらい乗せます。4日間で4千人～5千人くらい乗つけるだろうと。その時はこの船着き場から出てわずか10分くらいで交代して貰っておるんですけど、4時くらいから乗りまして、10時くらいまで、大体約1日千名くらいの方が乗っているように思います。全部名簿を取っておりますので、ずーと集計してみますと、だいたい1年間に乗る人数は3万人くらいで3分の1県外の方が乗っております。ものすごい人が喜んでくれます。ちょうどこちらの方が新町橋となっているんですけど、これもこの所に浮きステージがありまして、どンドン川が綺麗になっていく、イベントも住民の方でやって行きますと行政の方も力を入れますとこへこういう様な舞台を作ってくれました。この方はずーとボードウォークになって、ボードウォークは周辺の商店街の方で高度化資金を借りてボードウォークにもなってます。

長さが15mで、この一番広いところで6m、こちらが5m、狭いところが3m。こういう台船を作りました。今年の7月に作ったんですけど、阿波踊りの時に110名くらいがこの上に上がりました。もちろん110名がいっぺんに踊ったりは出来なんなんですけども、かなり丈夫な台船です。水際で遊ぶ幅が広がればということで、いろんな物が出来るとい事で、こんな台船こしらえました。ここで宴会をするとか、台船の中にいろんな物が置いてありますので、

この上でパーティー をするとか、いろんな事が出来るように、また、水際が違った形で利用出来たらなとい事で、私達の方で作りました。なんぼかかったかな、400の30万くらい。だったと思います。もうお金無いんでこれリースですって払っております。こういう様な台船が出来て、この後でこれを使って阿波踊りをして、この前この上で観月演奏会もしました。雅楽の演奏会をしました。

#### 花を植えています

ちょうど新町川のひょうたん島からちょっと入った所に、田宮川という汚い川があるんですけど、この所にこういう土の所が300mぐらいに渡って残っております。ここにこう花を植えようとい事で、これはもう最近の写真と違うんですけど、最近はこのは全部紫陽花になっております。平成2年の5月から毎週日曜日ここに来しております。毎週日曜日、朝6時です。6時から一応9時くらいまで。こういう花を植える時は沢山人来るんですけど、草むしりだけの時はあまり人は来ません。それでも今は8名位来ます。8人位ですって草むしりをしたりとか、土手の手入れをしております。こういう土の所が本当に無い所で、対岸は全部コンクリートになってます。この土の良さを見てもらったりということで、汚かったんですけど、こういう形で花を植えております。

毎年6月になりますとここにずっとライトアップしまして、ライトアップといっても裸電球ずっと付けてあるだけなんですけど、6月から7月までの間はずっとこういう様な形で電気を付けます。皆が「何かいな？」と思って見に来てくれます。紫陽花が1200株植えてあります。なかなか電気代ってどこでもくれんですけど、この家の人が全部ずっと10年間全部電気代をくれます。この家から電気を引かして貰っております。この花に水をやるのもこの家からもらってます。ここはちょうど地下水があって、ポンプで、ここで水をやるんですけど、朝から晩まで付けたりするもんですから、この家のポンプ、もう3回くらいネギました。それで30分位したら休ましてくれというようなことを言われております。それでもこんな電気をくれたりとか、近所の方がこういう形で負担してくれます。

#### 常に遊びを入れています

この所に15坪くらいの駐車場がありまして、毎年そこではいつも70名から多いときは100名位でいつもこういう「紫陽花パーティー」をします。こういうような川掃除をするとか土手の手入れをするとかいうと、なかなか皆寄って来にくいところがあるんですけど、常にこういう様な遊びを入れています。月に2回はだいたい何かの形で遊ぶような事が多いです。女性がだいたい半分くらいおらんかな、色んな人がおります。そういう形で常にパーティー をしています。

ま、会員が250名ですから、もう阿でも良いから1年に1回は参加して下さいと 総会の時だけでもいいし、宴会の時だけでもいいし、という形でしてます。掃除をする時一つも連絡はしません。来たい人が来るように、とい事で、そういう形でずっと続けております。こういうような遊びの時は八ガキで連絡をします。

これは3年程前から始めたんですけど、先ほどの新町川水際公園からずっと下流の所に、漁港がありまして、漁業組合が「とれとれ市」というのを月に一回します。それで私達の方の船がお客さんを積んで漁業組合の方まで行っております。水際公園の方から無料でお客さんを運んで行きます。この前の第2の土曜日にも行って来ました。最初は、8時くらいのオープンだったんですけど、最近では漁業組合の方が10時のオープンになっておりますので9時半頃行きます。この前の土曜日は10名ぐらいに乗って行きました。会員は、この子がちょうど高校2年生くらいだと思んですけど、小学校の3年生くらいから入ってきてこういう形でしています。小学校の時から船の無免許ですけど、船の運転はしておりました。それで高校生なんかでも今沢山人入ってきております。これが徳島の方の「とれとれ市」です。魚は安いことない、高いなあとされるんやけど、この漁業組合で前日にとれた魚を出しております。非常に新鮮な魚ですって出して3年くらい続けております。

#### ずっとイベントを続けています

川を綺麗にしていくとい時には、掃除とか花だけで無しに遊んでいかないかんということで、これも平成元年から「新町川ラブリバーフェスティバル」というのを作りまして、ずっとイベントを続けております。新町川を守る会より先に出来たんですけど、新町川ラブリバーフェスティバル実行委員会を作りまして、ずっとイベントをしております。

ボートレースをしたりいろんな事をするんですけど、平成元年の時には市役所が300万の予算、県が300万の予算私達の方が企業から集めて来るのが300万で、全部で900万ぐらいでしとったんですけど、市役所もずっとこの10年間補助金付いとったんですけど、減りながらも続いとったんですけど、今年から無くなっちゃいました。それでもやめるわけにもいきませんので、ボートレースとかは私達の方の会だけでやっております。今年も7月にこの新町川ボートレースをしました。最初は優勝20万円だったんですけど、賞金はだいぶ減ってきたんですけど、川を知ってもらおうとい事で、汚いときもあった綺麗なきもあらんんですけど、とにかく水に触れてもらおうとい事です。1年に一回はこのラブリバーコンサートという形でとにかく水を見てもらおうとい事で、こちらが新町川になってます。こちらが新町川水際公園で、この

所でいろんなイベントをずっとやっております。やはり誰が中心にならずずっと続けておりますと私達以外の者もイベントをしてくるようになってきます。ですからどんどんこう川が綺麗になっていきます。見ていくと綺麗になっていくようです。大潮の時だったらこの池の中へずーと水が入って来るぐらいまで水面が上がってきます。新町川の干満差が一番大きいところで、2m位です。川の深さがほしい約3m位。真ん中3m位です。

屋形船と邦楽の夕餉、これ私船頭しておるんですけど、屋形船と邦楽の夕餉というのも7月の15日～8月15日まで大体その間で毎週金曜日してます。お盆の間は12,13,14,15としますので、約10回ぐらい。もうこの船古くなって廃船なったんですけど、ここに乘っておる三味線のお師匠さんが3年程前に840万寄付していただきまして、新しい船を購入しております。

先ほどの新町川水際公園の新町橋の所なんですけど、ここでもこういう形でファッションショーをしまっ。ファッションショーは今までで3回程しました。このひょうたん島の周りでファッションショーといったら、どんどんお客さんが見ながらずーとお客さん一周で見てるんですけど、モデルが変わって行くんですけど、モデルでなしに、今度お客さんが変わっていくように、モデルはずーとひょうたん島の周りで何カ所かでやっておると、お客さんが船で回ってくるような、ファッションショーをしてみたいなあと思っております。この前はポーランドの人がここでファッションショーをしていました。

これ、雅楽の演奏会なんですけど、徳島の阿波雅楽会っていうのと、日本雅遊会があって、それが奈良から来てくれております。奈良から10名位、徳島から15名でこういう様な形で雅楽の演奏会もしてます。水際でいつも中秋の名月の時にやっております。今年は中秋の名月の時は出来なくて、それより1日遅れた十六夜の月にこの観月演奏会をしました。常に川の所でこういう様な演奏会をして、なんと無しにいつも水を見てくれ、という形でしております。

これも4回目か5回目なんですけど、ひょうたん島川祭りというのをしまして、これはカヌーでずーとひょうたん島を回っていきます。カヌーが100艇位あって、初心者にも乗ってもらっておるんですけど、実際昭和の40年50年だったら、ここでカヌーなんてとても出来る様なもんじゃ無かったんです。これがどんどんとまあ、カヌーをする人もここでやってみようかというような川に変わってきました。夏はまだまだ汚いんですけど、冬になってくるとこれがどんどん綺麗になっていきます。昭和40年であれば

BODが40～60あったと思うんですけど、今はBODが3ppm位になってます。ですからだいぶ綺麗になってきました。

クリスマスになりますといつ県庁前で、これはヨットクラブがしてるんですけど、徳島は県庁前にヨットハーバーがあります。そこでこういう形でヨットにイルミネーションを付けて、ヨットのツリーが徳島の冬の風物詩として出しております。これはずーと定着しております。

#### サンタが川からやってくる

その時には、これも8年程続いておると思うんですけど徳島は雪はほとんど降りませんので、サンタが川からやってくる、といふ事にしています。で、私達がサンタクローズになりまして、こういう風に川からプレゼントを配っていきます。約3万点位の商品を集めてきてまして、それを3千の袋に入れて、一日千ずつ配って行きます。最初の内は中身が悪くて投げ捨てられとったんですけど、今はもう中身がだいぶ良くなってきてましてあまり捨てる人が居なくなりました。やめたくても今年はいつ来るんですか?」というような事がよく言われて、もう止めることが出来なくなってます。サンタクローズのな!手ももの凄くおりました、若い人がこういう形でどんどん入ってくるし、このひょうたん島の周りの家もだいぶこうクリスマスの時には装飾を、イルミネーションでライトアップするようになってきました。そして川縁の家は大きな特製の靴下を吊ったりとか、そこでクリスマスの会をしたりとか、色んな事を川縁でするようになってきました。まあ綺麗に飾ってくれてる所には3年ほど前かな、カレー事件があった時だと思っておりますけど、クリスマスケーキを配ってきた事もあったんですけど、明るく日食べてないから「これはこういう理由で配らさしてもらいました。」というような事を話した事もありました。ずーとこういう様なことをしていきますと、クリスマスの時子供が川縁をもの凄く楽しんでくれます。

昭和32年位までは徳島市も県庁前で寒中水泳があったんですけど、川が汚れてきてとても泳げるような状態じゃ無かったもんですから、40年間寒中水泳無くなってしまいました。それでこれ、40年ぶりに復活した寒中水泳で、復活しましてからずーと毎年1月の10日位に寒中水泳してます。約30名位が参加をしまして、新町川のところで寒中水泳してます。夏の間は汚いんですが、冬であつたらまあ、どうのこうの泳げるかな～といふ事で、水も綺麗になった証拠という様な事で寒中水泳をしております。また来年も1月の10日位に、ほしいエベスさんの時にほしい寒中水泳してます。

これは先ほども話したんですけど、新町川を綺麗にす



るのには吉野川をせないかんという事で、吉野川のクリーンアップ大作戦と吉野川フェスティバル」というのをやっております。これも平成元年からずっと吉野川フェスティバルはあるんですけど、私が実行委員長を引き受けてからは6年目位です。その時から吉野川の一斉清掃もしてます。吉野川が一番下流の所から、吉野川の河口から80km先の池田くらいまでを掃除したこともあるし、今は10km位の間、河口から10km位の間を掃除するようにしています。5カ所位ポイントを決めまして、そこへ皆が集まって掃除をします。約7千名位の人が集まってくれます。行政が集めるので無しに、新町川を守る会というので人を集めてます。だいたい人が集まる時というのは行政が動員掛けて集めるんですけど、私達の方で掃除は集めています。これはその時毎年来てる、やはり徳島県の遠藤知事です。

吉野川のゴミは結構ありまして、これで4車で7、8回。1つの会場でこれくらいのゴミは集まっていきます。それでも大分減ったかな？とらような気はします。新町川のゴミと比べて同じゴミでもこちらの方は川の水が綺麗なだけ、流れて来ている距離も長いもんですから、ゴミそのものは大分綺麗なゴミがあるように思います。1年に一回だけ7月の一番最初の土曜日にしてるんですけど、吉野川フェスティバルの時は全県的な形で清掃しております。その時はとにかく川を知ってもらおうということで、徳島市の人でも吉野川を知ってますか？と言ったらほとんど知ってるんですけど、水に触れたと言う人が今少なくなって来ています。それで、この時はいつも吉野川でこういう様な形で船を出しております。ヨットはこれ、マストを倒して持って中に入れてきておるんですけど、J24です。そこでヨットレースもしたりとかしております。

これも私達の船なんですけど、これは屋根があるんですけど、最初は川巡りしておった船は全部この屋根があったんですけど、新町川とかすけとう川、ひょうたん島というのは非常に橋が低いもんですから、橋桁が低いもんですから、この屋根を付けることが出来ません。それでもう屋根は外してあります。とにかくこういう形で吉野川で川巡りをして、皆に水に触れてもらっております。

ちょうど上流の10km先に第十堰きがあって、そこからの「スイマラソン」というのとそれから、吉野川の横断というのをしています。やはり子供に川で泳いでもらおうという事で、横断レースもしています。非常に川で泳ぐのも危険なんですけど、できるだけ川に触れてもらおうという事でしています。昨年、表彰式をしておる時にうちの主人がおられますと言われて、探したら、まだ2km先の川の所泳いでおられた時がありました。平成元年の時これ始めた時には、泳ぐ人1人に対して船1隻付けてくれというようになったん

ですけど、今は10人に対して船1隻くらいですから、10km先から泳いで来ますともう500m位の所を船1隻で見えますから、実際に溺れた人があってもわからんかなあという気がします。今まで事故が無かったのが不思議だなあと、とても行政ではできん離れ業なんですけど、水泳協会とか、私達の方でやっています。なかなかこれは危ないなあというも思います。横断レースでも子供はだいたい行けるんですけど、大人は泳ぎだすと、10m位泳ぎ出すともう危険や、という人がおりました。何しに参加したかわからん様な人もおるし、目的地まで、ゴールまであと10mだという所でブクブクと沈むような人もおりました。大人の場合はなかなか泳いでもらうのが大変です。横断レースは1kmの所は、子供の場合はだいたいスイミングクラブでおって綺麗に泳ぎきると思います。それで、泳いだ子供はすごい自信になりますので、続けております。会場の中はだいたいこういう形で河川敷の所でピアガーデンをしておるんですけど、椅子の数が1200か300位あります。こういう川風に吹かれてもらうと、川の風は気持ち良いなあという事を感じてもらえたらということでピアガーデンを開いています。

上流のところ全部山は荒れております

今年は、杉の木を河川敷に植えたんですけど、杉の間伐材を持ってきまして置きました。公園の方の管理事務所にあまり詳しく言うておりませんでしたので、管理事務所がこんな杉の木が立ってビックリしておりました。電柱を掘る機械で掘ったもんですから、大きな穴が河川敷にあきまして、途中で止めれんもんですから、計画をきちっと言いますととても許可くれんと思いましたが、後はきちっとやりますからだけ言って掘らしてもらいました。こんな大きな電柱を掘る機械で深さ1mくらいあります。杉の木は、間伐材は6m位で1m位埋めてあります。とにかく今上流の所全部山は荒れております。緑は沢山あります、見るともすごく緑はいっぱいなんですけど、緑の砂漠と言われるくらい杉の間伐が出来ておりません。それで間伐が出来ておりませんから太陽光が下まで当たりませんので、土がそのまま、表土がそのまま出てきております。雨が降るとそれが土が全部流されていくと、杉の間伐が出来ておりますとお陽さんが当たってそこに下草が生えて来るんですけど、そういう山が少なくなっております。ですからここで、間伐をしようという意味を持って杉の木を立てました。

このイベントは今年は高知からも沢山の人が一緒に参加してくれました。来年は香川県の人と、愛媛県の人と一緒にやりたいなあと思っています。吉野川っていうのは、四国を1つにしてるのは八十八カ所と吉野川、とがあると思うんですけど、高知県が源流でそれから愛媛の方にも水が行ってるし、香川の方にも水が行ってます。もちろん徳島の方は一番下流ですから来てるんですけど、吉



野川を考えるとときに流域全部で考えていかないかん。それと下流の方はもの凄く恩恵を受けておるんですけど、上流の方は非常に困っております。過疎と高齢化で山がなかなか荒果てておりますので、私達の方も2ヶ月に一回くらい高知の方の上流の方へ行って、山の人と話し合いをしたり一緒にする事をしてます。山の方も2ヶ月に一辺くらいにちらの徳島の方に来ますので、一緒になってやろうと。ダムはこの糊面の所に花を、草を植えたりとか、山の方はいつでも行ったら貸してくれますので、この前上流の山の方で話したら100年くらいであつたら貸してあげるでよ。ほな貸してもらおかな、とらことで、この11月の10日に山を見に行くようにしております。

川が綺麗になってきますと、ボードウォークがこれ5年くらい前にオープンした時なんですけど、ここがちょうど赤い所に今レストランがあるんですけど、この時はまだレストランが無かった時です。最初にこちらの川の、駅側に水際公園が出来た時に、こちらの方の側の家はもの凄く汚かったんです。こんなに水際公園が綺麗になっても対岸がこれじゃあ何もならんなあと、皆が言ったんですけども、今はもの凄く綺麗になってきました。ここもレストランが出来てきました。かなりのお客さんが入っております。ボードウォークはこしら辺りの商店街の人で高度化資金を借りて作っております。

県の方でも、これは新町橋なんですけど、この下のアンダーパスの所に、こういう様な所にこんな窓を作らして、「満ち潮水族館」。これ今は潮が引いておりますので満潮になりますと水がこの辺まで来ます。そしてここからこう覗きますと魚が泳ぐのが見えます。魚も何十種類も今はあります。だいたい見えるのはボラとかスズキが多いんですけど、だいたい魚が見えます。冬場になってきて水温が下がると魚の動きが悪くなりますのでちょっと見えにくいんですけど、夏場になるといつも魚が見えます。

川もどんどんと船を回したりとかイベントをしていきますと、行政の方も非常に力を入れてきます。今これ徳島駅の裏側になってる所なんですけど、こういう様な、これは完全な船着き場じゃ無いんですけど、こんな様な船着き場も出来てきました。これはちょっと出来の悪い船着き場で、これでは付けられないんですけど、県の方で船に乗ったことのない人が設計するもんですから、どうしてもこういう様な物になってきます。それでもまあ一歩前進かなあという様な事を思っています。この他にももう一カ所今建設中の所があります。これは多分綺麗に出来るだろうと思っております。やはり川巡りをしていく。そして船を無料で動かすとい事が非常に大きな効果があつて、無料ですからここをこういう様に下さいああいう様に下さいとかい提案をして、案外と行政は言うことを聞いてくれま

す。そして今もまた新しく、これはもう県が直接作りましたので、この時もなかなか話しに乗ってくれななだです。今、出来てるのはなかなか綺麗なものが多分出来るだろうと思っております。これでも一歩前進かなあと思う。まあここに一つポンツーンを付けななだら乗降りが出来んのですけど、まだこの公園が完成しておりませんので出来たらまたここからも人を乗せるようにしようと思っております。

#### 寝転がって川が見える

これ今の徳島駅の裏側側の所なんですけど、2年ほど前まではずっとコンクリートの普通のパラペットであったんですけど、ずっと下に青石を今貼って、土手を低くしまして、パラペットを低くして、この上ずっと土の土手にしています。これも寝転がって川が見えるようにしませんか、とらことで、約300m、400m位の間、すーっとこうい様な土の所が出来ました。まだ完成して無いんですけど、ここは寝転がって川が見えるようになってます。やはりこういう様な所を作ると、非常に面白いかなあと思っております。

ちょうどこの所くらいに徳島駅があるんですけど、徳島駅に着いたらすぐにこの、ここに道を付けるといのがあるんですけど、道で無しに運河を掘って行って、徳島駅を降りるとすぐに船に乗れると。そしてその運河の所に市民が寄って来るような街にしませんか？という様なことは提案してるんですけど、これはとても出来ななだらうと思っております。

これは建設省が作ってくれた船着き場です。ちょっと角度が悪くて、分かりにくいんですけど、こういう様な船が2隻入るようになってます。今年の4月に作って、この7月から船を置くようにしています。大平所長というのが、徳島事務所の時に、国土交通省の大平所長というのがおりまして、第十壱壱の時に来とつた人ですから非常にすごい人だつたんですけど、その人が船着き場造りが、ちょうどうちの船のちょうどの高さに合わせた形で船着き場を作ってくれました。2隻置けるんですけど、何千万じゃ無しに、億のお金がかつたような綺麗な船着き場が出来てます。それで管理契約をこの7月に結びまして、建設省と私の方で結びまして、ここを、船を利用するようにしています。今度初めてこの10月の29日に身障者、車椅子の人を30名乗せるようにしています。これは車椅子で河川敷まで来て、直接船まで車椅子で乗れるようにしてあります。どんどん川巡りをしてますと、行政の方もこういう様な物を作ってくれるんだなあと思いました。建設省の船もこちらの方の陸上の所に1つ置いてあるんですけど、動いた所を見た事が無い。動いた事がないような船が建設省にあるんですけど、わたしたちの方の船着き場を、私達だけって言つたらいかんのやけど、こんなのを作ってくれました。役所の船着き場を使うのはちょっと不便なところあるんですけど、前の月ま

で一艘に乗るとい計画書を出してくれと済んだ後は報告書を出してくれと言うから、も難しい。使いにくいんですけど、使わなったら向こうも誰も人がないから困るんだけど、難しいことを言われております。これを私達の方で今使っています。今年の吉野川フェスティバルの時はここで、ここから利用させてもらいました。

これは徳島の県庁前からずっと水際公園が続いておるんですけど、まあ2kmくらいひょうたん島の一角で、徳島県庁前から上流2km位まで「光景観創造事業」というのを県が始めました。この計画というのは、最初から、計画段階から住民が入っていくというようになって、徳島の土木では非常に画期的な事であったんです。それで、計画段階から入って色々光景観創造事業をやっているという事で、2年位前に始めました。計画段階から住民が入るようになってんですけど、50人集まると、県の人々が30人余りあって、一般の人は10名少々位。新聞からはよく叩かれまして、住民参加でしよるや言っても一つも住民おらんでないか、と書いて新聞に書かれたこともあるんですけど、どんどん進めていきますと、今いろいろしている事は、今度は50人ほど集まると、住民の方が40名位で行政の人が10名位。それでこの水際公園の所のライトアップ光景観創造事業というのがこの2年ほど前から始まりまして、だいぶ進んでまいりました。

これはちょうど徳島駅から来た所なんですけど、去年からこういう様な形でずっと川縁をライトアップしていきまして。これは松下電工かな？松下さんが引き受けて、この電気の工事をしております。約2km位で、この公園のライトアップするだけで無しに、周辺の公園も全部整備してこういう事でやっています。やはりそれにも住民が出来るだけ参加しております。

なかなか住民参加と書いて難しいものですから、ここに一つ先ほどの大きなライトアップした、川縁の上の所にこんな公園があるんですけど、幅が6mで長さが40m位。こちらとこちらに2本あるんですけど、そこへ花を植えました。県が工事をしていく、その時にただ会に参加しただけではいきませんので、その進捗状況と一緒に私達の方も花を、一緒に住民が花を植えていこうじゃないかという事でしています。これ、サルビアとか全部で1万位植えています。ちょうどこの土の所がお金がなくて植えることが出来ませんでした。それで去年の春からずっと今も花を植えています。住民が自分達でお金を出し合ってきて植えていく、最初の時に県庁で20万くらいくれたんですけど、あとは私達の方です。

私達の方では常にこんな様なパースを書いてもらった

りして、わりと提案をしていきます。これちょうど県庁前に渦潮ビールって出来たんですけど、これは公安の方へなんですけど船着き場を一つ、こういう形で船を付けるようにしませんか、という事も言っています。なかなか公安の方は聞いてくれるんですけど、出来るだけ長いこと言うようにしています。1ぺんや2へんであかんけど、だいたい100片くらい言いよりますと、だいたい出来てきます。今、公安の所にもこういう形でなんか船着き場を作って、この渦潮ビール行けるようにしませんかとか、いろんな形で提案しています。今一番下流の河口の所に、マリニピア沖州ってあるんですけど、そこに和歌山に行く船がずーとあったんですけど、車で全部大阪の方へ行けるようになって、来年の1月で全部そこの港から出る船が無くなります。そこで今私達の方で大きな台船を作りまして、そこで徳島の魚を食べてもらえるようなところ、「紀伊水道料亭徳島海座敷」というのを作ってみようということでNBOの方で計画しています。今計画しとるのが、長さが60m、幅が20mくらい。そんな台船を中国でこしらえて来た人がおまして、県庁の方でその船を置いたらいかんと言われとる人がおますので、持っていく場所が無いだろうと思いますので、それを借りてそこでやるかなと思ってます。徳島、海座敷という様なもんもやはりしたいなあと、約2千万くらい掛かれますので、最初の1ヶ月間はただ魚を入れてもらって、1ヶ月間は人件費もただにして、お酒も1ヶ月ただにしたら、だいたい2千万くらい浮くんじゃないかなってな計算をしています。いろんなイベントをしてるんですけど、新町川を守る会では、年間で8千万から1億くらいのお金を使ってるんじゃないかなという様な気がします。出来るだけ皆から集めて、そして街づくりをしています。

#### 黙ってゴミを拾う

スライドはこんな所なんですけど、どんどん、こう住民が先頭に立ってやっていると、街は変わってきます。こういう様にしてくれ、ああい様にしてくれとか、ただ言うではやっぱりなかなか難しいんですけど、どんどん掃除をしていく。やはり掃除が一番の決め手で、掃除は毎月一日と第3土曜日、それから第1と第2の日曜日。その他に特にゴミがある時は掃除すると、ゴミがあってもたとえ橋の上にゴミが放り捨ててあっても文句を言ったらあかんという事を言っています。僕のこと拾ってくれ、黙って拾ってくれということにしています。ですからその時にゴミを放つたらいかんと言くと、今度反対におまえに頼んでないというような事になってきて、反感が出来てくるんですけど、ゴミを黙って拾うっていうそれをずーっと続けると、最低5年、10年もしてきますと、もの凄く市民も変わってきます。ですから、機械で掃除するんでなしに、大きなすくう物でやったらどうですか？と言う人もあるんですけど、それよりも網でどんどんすくっていく。そしてああい様に掃除している人

がいるんだから、放らんような街にしていく。そういうような事になっていきますと、どんどん周辺のまちも変わってきます。公園の方なんかでも、この所はこういう様子にしたら良いん違いますか？というように事を提案をしていきますと、行政の方もだいたい事は聞いてくれるような気がします。それであんまりこちらの方が言う通りになった時は、責任を感じるんですけど、それでもよくここまで出来たなあ。それで、2、3年ぶりに人が来ても、良く変わったなあ。と皆ビックリしています。私自身でもここへこんなようにお金入れてもいいんかいな、とらような気がしてます。それでもやはり水の街というのを目指していけば非常に良いなあということしてます。

最初に新町川水際公園ができた時には、こんな公園が出来てもこんな水が汚いんであったら、こんなんしたってどないもならんで、というようなことは言う人がだいぶいました。それで汚いときにはこの上を駐車場にしたらどうかという事を提案する人も居ました。徳島新聞の方から、徳島新聞の記者をしている人でこの上を駐車場にしたらどうですかと提案された事もあります。でも、どんどん川が綺麗になっていくとそういうような事を言う人もすこい居なくなりました。そして一緒に川の水も綺麗になって行くし、建物も川の方を向いて来るし、やはり建設省とか橋を架ける場合でも、徳島の橋は良い橋ないんですけど、それでもそれなりに橋を考えてくれるようになってきました。ですから、やはりまちづくりっていうのは、住民が先頭切って動いていく。そしてそっから来て行政はやっぱり良くしようと言った団体と私は思ってますから、ものすごく応援してくれる。小さな街ですけど、会員も街が変わってくるのが分かる様に思う。こうやってやるのは、私達がいろんな事を手がけていくんですけど、イベントも、やはり1人1人が生き生きしてくる街を作っていきたいなあということが目標です。その地域行って、観光とかやって、景色が良いと言ってもなかなか1回しか行かんとだろうと思うんですけど、生き生きする人がどんどん出てくるというのが実際は街づくりだろうと思います。それが格別で、山行く、海行く、吉野川の中流行くとか言ってももの凄いですので色んな人がこれに係わってきて、その人が全部生き生きしてくるような気がします。今まだ途中なんですけど、だいぶだんだんそういうような事がこう変わってくるなあという事を実感してます。今人とお付き合いが希薄になってると思うんですが、仕事の中でも仕事の中で人と付き合いがあるだろうけど、いったん外へ出てみますとなかなか人とお付き合いが少ない。ボランティアというのは、もの凄く人が集まってきました。それも、いろんな形のボランティアをしますと、高校生も入ってくるし、またずっと年輩の人もはいてくるし、いろんな形で交流が出来てるように思います。こういうような事をしておったからまたこんな大阪にも来れたし、いろんな人にお付き合いが出来るといのが非

常にいいなと思ってます。 どうもありがとうございました。遊んでばかりですが、どうぞ質問して下さい。

C: どうもありがとうございました。いろんな示唆に富んだ話とらか、いっぱいお話の中に入っていたというふうに思うんですけど、実は昨年度ですね、都市環境デザイン大賞っていうのをもらわれたわけですけども、その主催者っていうのは都市デザイン会議といまして、都市環境に関わる専門家の集団なんですけれどもね、全国で、その会議から推薦されたものの中からですね、1位というか、最優秀とらことで、決まったんですけども、みんなすぐ何とも言えない、ほんとに良いと思うんだけど、これを1位にしていいんだらうかという何でかって言うと、これ、専門家の姿があまり見えないんですよ。我々というか、専門家は一体何をしていたんだらうと。もう少し専門家が世の中の役立っているというなものにですね、あるいは、共存してやってるというような所にですね、ほんとは視点を当てたかったんですけども、どうもそういうところにいかなかったと。だけど専門家っていうのは往々にして特にまちづくりとか、特に地べたを扱うようなもの場合には行政とやってるわけですけども、行政とのやり方とか、付き合い方とかね、その辺のところではぜんぜん、それが、普通であるのか本来であるのかも分かりませんけれども、忘れていたと言うか、そういう見直す視点とか、そういうものが、もう一度見直されたと言うか、なんかそんな感じかなあと思いますよね。普通はどうして効率とか、そういう事で決めがちだけれどもそうではないんだと長い目で見てどうなっていくのかと。だから3千円払えばゴミを捨てる権利が与えられるて、何のメリットがあるんだと言った時にその街が良くなるじゃないかと、それも5年10年かかって良くなるという話ですから、なかなかそのところは役所とかそういうものとはまただいぶ違う話なんだと思います。10年以上やられていて現実に目に見えるものになっているという辺りかもう、すごいことだと思えますね。

頂いた御経歴を見させていただくと、これアあってますかねえ、生年月日は、< あってます。 > 1938年生まれですから、63才でいらっしゃるんですかねえ。見た感じすごくお若くていらっしゃいますよね。やっぱり生き生きとされているということ、そういう活動が関係があるのではないかと思いますし、水に近づくとこ汚いものも見えてきて、とい所からスタートしているんですけどもやっぱり人とも近づかなきゃいけないなあとかですね、いろんな事に関係する話に繋がっていくなあという事をしみじみと思いました。

どなたかご質問ございませんでしょうか。

Q: 最近ゴミを捨てるんですね、罰金とるとい市町自治

体が出てますが、それに関してはどう思われますか？

中村：私はそれはあんまり思わんのだけど、罰金とるとい方法はあんまり好かないもんですからとにかくご、みを捨てたらいかんとい看板も新町川を守る会としては出さんようにしよう。とにかく気が付いたら気が付いた者が取ったらいいじゃないかと、ゴミを集めたらいいとい風に思ってます。まあ、こーい様なボランティアの団体は、私は、思い付きと、思い込みと、思い上がり、思いやり、でいたら良いと、思い付いたら直ぐにせんかと、ゴミが有れば指摘せんでも直ぐに取ればいいという形で、思い付いたらしようということ。思い込みは色んなイベントをするとかするんですけど、自分で、こーやってしたらこないなるんだ。ということを自分で思い込んで、先に絵を描かなきゃなかなか出来んだろうと。そして思い上がりは、わし等じゃなかったら出来んぞというぐらい思わなんだら、なかなか動いて行けません。だけど最終的にはこの思いやりがなかったらいかんのかなあという事で、思ってます。とにかくあまり会議はせず出来るだけ動いて行こうという事でしてます。

この中で、お金集めるというのがなかなか大変なんですけど、吉野川フェスティバルとか吉野川でするイベントにはやっぱり3千万～4千万位かかってきます。3千万かかった時に県とか市とか環境事業団、河川管理財団、そういう所で一応1500万円ぐらいは集めます。あとの1500万はビールの切符売ってます。ビール2杯で千円とらのを売るんですけど、7月の終わりにこのイベントをするんですけど、だいたい5月位から売っていきます。だいたい千円の切符売っていきまると、半分は来ません。1500万から2000万ぐらい売りますので、まあ2千万売れば1千万は残ってます。そして来てくれた人も、1杯500円ですから、実際300円くらいでいけますから、お金は残ってきます。

まあ売るのに非常に抵抗があるんですけど、吉野川を良くするために売ってるんだ、という事で、お酒飲まんとか、これは高いとか、こー行かへんとか言う人おるんですけど、徳島を良くするとい事で切符を買って下さいと、そういう形で売ってます。うちの方の会員でもうけ売る人は1人で300万～400万くらい売ってくる人もおります。会員は全部一応1万6千円を割り当てて売るようにして、嫌な者はみな戻してくれたらいいという事で、だいたい1万6千円を売るようにしています。その内半分ぐらいは戻ってきますけど、後の半分はだいたい買ってくれます。イベントとかするとい時に趣旨がハッキリして、目的がハッキリしてないと、なかなか売れにくいと思います。売れない時はどこか自分達の計画が間違っていると、売るのも一つのイベントだということで、まちづくりだということで売ってもらってます。この吉野川フェスティバルが7月の終わりなんですけど、この12月にもします。

これは、「明かりと花のまちづくり」というのを、またこの中心部、先ほどの水際公園辺りでやります。これは県の方から宝くじの方の予算を頂きまして1300万くれています。これに私達の方であと700万集めまして、一応2千万でするとい事でしてます。で、いつも県から委託を受けてする時もくれたお金になんぽか足していつもかならずしていません。それでないとなかなか皆、真剣みが出てこない。そこは、1300万くれてその中でしようと思つと、皆が応援する気持ちも違ってきますから、住民参加のまちとい事で住民のお金を集めて来てする、そして集まらん時はどっか間違ってるという事で、とにかく会員には売れと、皆売ってこい売ってこいと言って売ってもらいます。今年の年末は、夏はビールなんですけど、冬はワインです。ワインの方がだいたい儲かります。ワインは1本千円のワインでそれを、コップで6杯くらい取れますので、券は千円で2杯ですから、来てくれても3杯儲かるようになってますから、それでもだいたい売ってもらってます。まちづくりという事で買ってもらって、もずーっとやっていますから、だいたいまたかっという形で定着しています。県庁の方でもなんぽか売ってくれます。市役所の方でも売ってくれと、それから一般の人にも売っているという事で、売っておると何人が来るっていうのが分かりますから、それでまあ「明かりと花のまちづくり」徳島冬祭りとして、色んな形で住民参加に出来るだけなるような形でイベントをしています。

やはり今までは行政の方でも徳島でも電通とか博報堂、徳島新聞と大きいところに任しておったんですけど、こういうようなのではなかなか街づくりにはなりません。住民がしていく方が、住民にノウハウが残っていくし、イベントする時、私はいつも弱い者ほど前に行かないかんと、強いもんが前に出るとなかなか上手いこと行きません。役所や行政、市役所がするとか、県がするイベントになってきますと、それが新聞社とか大きいと所がしますと、うちの方のアルバイト代くれるとか、弁当代くれるとか、皆が取りに来るんですけど、私達の団体がしますとジュースもいらんし、弁当もいらんし、お金も払わんでいいしとい事になってくる。ここの吉野川フェスティバルする時でも、日頃ずーっと色んな事しておりますので、掃除なんの時に来てくれる人もおりますから、3日間でボランティアで500人位来てくれます。ボランティアで全部運営しますので500人が来てくれますけど、人件費一切払わんでいけます。あてにはならないけど、だいたい当日になったら集まって来てくれます。

そしてこのビール売るにも全部うちの会員が売るし、焼き肉も、淡路バーベキュー大会もしています。今年は、これは一つも諸からのやけど、3千円の券で2千枚くらい売りました。600万ぐらいの支払い。これはうちの方は一つもうちの会としては儲からのだけ、肉が3千円と言うたら3千円肉屋さんに払うんですけど、券を買って来ない

人もおるけんね、それが儲けです。ビールは確実に、ビールの場合は千円ですから、だいたい来ん人が多いようです。半分ぐらいは来んような気がしてます。いつも

C: 今のゴミの話ですけどね、ゴミを捨てるとかって話がありましたけど、ゴミを捨てるなって看板はけして美しく無いですよ。あれ見ると嫌になりますよね。さっきゴミ百選でしか、ゴミを捨てるなという看板があったけど、うとうしいから捨てたのかも分からないですね。やっぱりそういう看板も無くなりましたか？

中村: なかなか会もようけおったら難しいんですけどね、でも黙々と取っていく。それが一番効果があるような気がします。

C: だけどね、あれだけやられていて、あんなにゴミがあるわけでしょ、我々大阪に住んでいて、一応、川もいっぱいあるんですけどね、取ってないと思えばどんだけ溜まってるだろうなって、ちょっと恐くなりますね。

中村: こら、沢山あるだろうね。ゴミってこっち側から見てあるなと思ったら現場にまで行ったらもの凄くあるんですよ。目で見てあゝゴミがあるなと思ったときにそこまで行くもの凄いゴミがあります。

C: なんか怖い話ですね。

中村: ゴミを少なくと言うだけじゃ無しにゴミを捨てないようになっていんですけど、そういうのも大事にしようと言うようなことをしていかないかと思ってます。こういうところの良いところは、上流から下流までものすごく人が出来るということだろうと思います。山の人とも付き合いけるし、いろんな所に行って交流して行くんですけど、山行き海行きするんだけど、交流の時はそこを良くしてこうって気持ちで常に要るだろうなとは思ってます。そこを良くしてこう良くしてこうというのは一番、自分を良くするような気がします。今、日本も海外へよく行くんだけど、昔から思うんだけど、やはりその国を良くしようと思って行かないとなかなか最後には難しい違うかなと思います。安いから行くと言うようなんじゃないかに、その国を良くしてこう良くしてこうというように気持ちで企業進出がなされていかな場合は、最後は日本人がまた恨まれるような事になるん違うかなと思ってます。相手をよくしようという気持ち、そんなんが要るんじゃないかなあとずっと前から思ってるんやけど。

C: 川からのまちづくりというタイトルですけども川下から川上、川上って行ったらもう山の上だとい話になってし

まうわけですね。

中村: 新町川だけしとつたらいいし、とよく会員からも言われるんですけどねえ、いろんな事する事がその場所において生き活きする人が出来てきます。これは私が責任もって動いてますから、出来てきますから。花植える時でも人がなかなか集まりにくいんですけど、花だけ植えるだけ、朝6時から行って。それでも最初の3年で一人増えたら良いなっていうもりで始めました。そないに皆に来てくれ来てくれと思わんととにかく3年間で1人増えたら良いなと次の3年でそれが倍になってくるとい形で。ほんとに好きな人を作っていかなんたら、来いよと言ってその時は来るんだけど後がなかなか続きません。だから、私らの会もこんなになるとは思ってなかったんですけど、最初10名で作ったときに行政の方は直ぐに応援する応援すると言うんですけど、最初は応援してもらわんでいいって言う方がお金は集まってきます。だいたい会を作ったときに直ぐに出来るより前からなんぼかくれますか、って言う話が多いもんですから、こういう川の掃除だったら、行政のもんとなっています。それでも応援は要りませんと、お金いませんとお金の最後は集まってきます。向こうが絶対出さしてくれとって、2年かそこらしよると、そういう風になってきます。私達の方も公務員の方が割と沢山入っておるんですけど、こういう人があらゆる所で、ここでなんぼで、ここでなんぼで...なんぼでもある所は皆探して来てくれます。それで色々な所で補助金も申請するんですけど、こういう所だったらこの人、こういう所だったらこの人、だいたい4、5人おりまして、専門に申請する人がおります。当然自分で申請してくれてる人もいます。役所の申請は私達が申請してもなかなか難しいところがありますから、挨拶には国土交通省でも、ちょこちょこ東京行ったときは私寄っております。後継者はと言われるんだけど私もようけ出て行きよるからそれはなかなか言えませんが、だいたい1年の内360日くらい川におります。家にもおるんですけど、そういう所に出かけてます。だから後をせいで言うのもなかなか難しいなあと思ってますけど、家も商売しよるんですよ。これぐらい出かけて行きますと、家内も許してくれます。私の自宅の方も皆が集まれるような場所になっています。20名位はいつも集まっていつでも酒が飲めるような形で。誰かかれか来てます。今日も来るときは人が来ておりました。会員が、女性が案外多いもんですから、昨日も若い子が泊まって行きました。

C: ご商売が靴屋さんだそうだけれども、それだけ歩く靴が減るんじゃないかと。さて、本日は、いろいろと笑って聞いているだけではいけない内容がいっぱいありましたが、そういう話を笑いの中でお話しいただきました。本当に有り難うございました。